



図書館だより



2023年
9月29日発行

秋草学園高等学校 図書館

桔梗祭の頃はまだ夏のような暑さも落ち着き、ようやく秋らしい気候となってきました。多くの来場者で賑わった桔梗祭。みなさんたくさんの思い出ができましたか。準備から当日まで大変なこともあったと思いますが、それも良い経験となったのではないのでしょうか。また来年が楽しみです。さて、来月は2年生が修学旅行に出かけます。修学旅行でも充実した時間を過ごしてきてほしいと思い、図書館では修学旅行をより楽しめるよう長崎や福岡に関連した本を集め、展示を行っています。下調べに役立ててください。

今年プラネタリウム 100 周年の年

近代的な光学式プラネタリウムは、1923年ドイツのカルツァイス社で誕生しました。今年はそのからちょうど100年目の記念すべき年。各地のプラネタリウムや科学館でも企画展が行われているようです。この秋はみなさんもプラネタリウムへ出かけてみませんか。

440-㊦ 『プラネタリウムの疑問 50』

五藤光学研究所 || 編 成山堂書店

プラネタリウムは誕生してから今日までどんな歴史を歩んできたのでしょうか。時代とともに進化し、多くの人に愛されてきたプラネタリウムのしくみや楽しみ方、魅力が詰まった1冊。プラネタリウムの解説者という仕事についても詳しく載っています。読んだ後にはきっとプラネタリウムへ行きたくなるはず！



B913.6-ミ 『星降プラネタリウム』

美奈川 護 || 著 KADOKAWA

「人は、何のために星を見るのか」星空を売りにする生まれ故郷に対してわだかまりを消せないまま上京した昴が新入社員として配属されたのは施設運営部プラネタリウム事業課天文係。そこで魔女と呼ばれる解説員 望月やプラネタリウムを訪れる人たちの思いに触れ、昴はずっと抱えてきた問いに対する答えを見つけていく。

こちらもおすすめ！！

★星座館を舞台にした家族の心温まる物語

913.6-㊦ 『三軒茶屋星座館』 1~4

柴崎竜人 || 著 講談社

★星座にまつわる“せつない事実と物語”

443-㊦ 『せつない星座図鑑』

多摩六都科学館 浦 智史 || 著 三オブックス



気になる秋の映画やドラマの原作

510-㊦ 『日常の絶景』

八馬 智 || 著 成山堂書店

『絶景は非日常だけとは限らない。日常にも潜んでいる可能性がある』室外機、コンテナターミナル、消波ブロックなど、パッと見では絶景ぽくない景色。だけど、解説と併せてじっくり眺めていると、見方が変わってくる。新感覚の絶景に出会える1冊。どんなドラマになるのだろう。

913.6-ビ 『アナログ』

ビートたけし || 著 新潮社

インテリアデザイナーの僕は仕事帰りの喫茶店で出会った女性に一目ぼれする。デジタル化した世界で二人は連絡先を交換せず、毎週木曜に喫茶店で会いましょうとアナログな約束をする。不確かな約束だけで繋がった僕と彼女はゆっくりと仲を深めていく。しかし、その矢先…。

新着コーナーの気になる本

913.6-㊦ 『笹森くんのスカート』

神戸 遥真 || 著 講談社

ジェンダーフリー制服が導入された高校。笹森くんは夏休み明け、スカートで登校した。みんな表立って騒いでいないけど、どこかそわそわしている。笹森くんもこれまでと変わらず爽やかだ。スカートを選んだ笹森くんの思いは？周囲の反応は？様々な人物の視点で物語は描かれる。

913.6-ミ 『墨のゆらめき』

三浦 しをん || 著 新潮社

ホテルマンの続力は披露宴などの招待状の宛名書きを担当する筆耕係の遠田に仕事を依頼するため、彼の自宅兼書道教室を訪ねる。初回から自由気ままな遠田に振り回される続だが、気づけばいいコンビになっていく彼らのやりとりがおもしろいです。書家の仕事を覗き見できる1冊。

司書の今月はこの本読みました

やっと『街とその不確かな壁』村上春樹 || 著 (913.6-㊦ 新潮社) を読了。夏休みからの延長戦です。私には難解でしたが第2部に出てくる図書館が魅力的で、そこからは一気に読みました。読後、壁からエルサレム賞受賞時のスピーチ「壁と卵」を思い出しました。人間はそれぞれ一つの卵、壁は本来卵を守るべきシステムのはずなのに、ある時には人を殺し殺させると。小説中の壁は日々形を変化させ住人を囲み、抜け出すのは困難。さらに単角獣や影の死を甘んじるよう求めます。疫病や戦争の時代に書かれたこの小説、作者の意図が気になります。【鈴木】